



学校で実践しよう！ ポジティブ行動支援作戦本部 Positive Behavior Supports (PBS)

Web参加可能!

はじめに

児童生徒にある行動を定着させることを目標として学校で活動を行った際に、こんな経験はありませんか？

- ❖ 活動の成果物（写真にうつっている姿や、アンケート結果に表れた意識の変化）は素晴らしい！けれど、その後の子どもの姿を観察していて、「普段の行動が変化した」という実感が無い。
- ❖ 禁止ルール（～してはいけない）や、問題が生じた際の注意が主に強調されていて、指導場面でネガティブな会話がが多い。

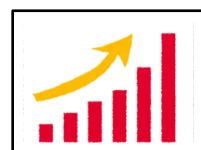
★ ポジティブ行動支援（PBS）では、日常生活における自発的な望ましい行動が定着するように、積極的に環境を整えることを重視します。個人、学級、学年、学校全体と、様々な規模で実施することが可能です。ポイントは2つ！

活動のしくみや、教室・活動場所の構造の工夫

行動しやすくなるヒントの提示や、お助けアイテムの使用

声かけ（特にその行動を取れたことにどのような意義があるか）

「行動」の変化をデータで提示



①望ましい行動が生じやすい環境づくり

②行動が生じた際のフィードバック

★ まず行動が増えるには①が必要で、その行動が定着するためには②が重要です。行動を定着させるために①と②が**あふれる環境を積極的につくり**ます。また、行動上の問題がみられた際の指導の仕方も計画します。

- ➔ ①をたくさん経験することで、大人になったときに児童生徒が同じように環境を工夫して必要な行動をとれるようになります。②をたくさん経験することで、児童生徒が自分で自分を認める声かけができるようになります。
- 環境から与えられた経験を自分で取り入れるようになることが、児童生徒の「成長」「自律」だと考えます。そのためにもまずは学校側が積極的に環境を整えて、児童生徒が適切な行動を取れるためのしなやかさを学校内に増やします。

セミナー概要

担当：宮崎 球一 上越教育大学心理臨床コース助教（新潟県スクールカウンセラー、公認心理師・臨床心理士）

日時：毎月最終週の水曜18:00-20:00（11月のみ月曜。また参加者の都合に合わせて変更する可能性あり）

予定：11/25(月), 12/25(水), 1/29(水), 2/26(水), 3/25(水) →2020年度も継続予定

本セミナーは、基本的に継続して参加していただくことを想定していますが、参加者は毎回学校教育実践研究センターに申し込んでいただく必要があります。

場所：①学校教育実践研究センター（本会場）、②学校・自宅（「Zoom」を使うためのWeb環境が必要）
※遠方にお住まいでもWeb参加が可能です。Zoomは通信量が非常に少なく、すぐにダウンロードして参加できます。なお、Zoomに関する問い合わせは、宮崎まで直接ご連絡をお願いします。

対象：最大10名程度。PBSの実践を計画したい、実践に関心がある小中学校の教師（実施規模は問わず）

- 内容：(1)参加者が学校で行うPBSの活動内容と、行動データの収集方法の検討
(2)参加者が学校でPBSを実践した結果（行動データ）の定期報告と改善策の検討
(3)宮崎によるPBSおよびその土台である応用行動分析の研修（不定期）

その他

- 「望ましい行動」はセミナー内で確定させます。現在その行動が取れていない理由を「子どものもっている性質」だけでなく、「環境との相互作用の結果」という視点から考えます。また「なぜ今その行動を増やす必要があるのか？」「将来どんな場面でその行動が必要になるのか？」等、その行動が増えることが、児童生徒のQOLの向上や将来の社会生活との関連性があるかといった妥当性を検討した上で、目標に設定するようにします。
- 参加される先生および学校からの同意が得られれば、実践を宮崎との共同研究としても位置づけさせていただき、成果を学会等で発表することを予定しています。その場合、研究として成立させるための学校でのデータ収集について、研究活動の相談をお願いさせていただきます。
- 資料は、個人情報が含まれないものに限定した上で、クラウドを利用して電子ファイルで共有します。
- 事務連絡と出欠確認にはLINEグループを使用します。

ご不明な点があれば宮崎まで：kyuichi@juen.ac.jp